

時代を読む

渡辺 利夫



まだ履行していない。高濃縮ウラン型やプルトニウム型の核兵器については申告の可否さえ不明である。

昨年十月に平壤で開かれた南北首脳会談では韓国側の大幅な譲歩により、核については「六カ国協議の合意履行に共同で努力する」と曖昧な表

の南北共同声明、一九九一年の南北基本合意書、非核化共同宣言のいずれもが死文化しており、昨年の南北会談でも北朝鮮からの譲歩はほとんど得られなかった。

らに核兵器によって米国と在韓米軍を脅かし、米国の介入を排除して韓国との統一を「平和的」に実現するというのが金正日総書記の意図であろう。

李明博政権になって韓国の対北朝鮮政策が変わるかというテーマで小稿を書きたそうとしていた時(三月二十八日

た。金大中、盧武鉉の両政権が核廃棄という条件にこだわらず対北経済支援をつづけたた

して今回の黄海上でのミサイル発射は、李政権の対北政策を採るパロンテッセ(観測気

幅な譲歩により、核については「六カ国協議の合意履行に共同で努力する」と曖昧な表

李政権は核放棄と開放進展を厳密に検証したうえで対北支援を行い、昨年の南北首脳会談での合意プロジェクトも

盧前政権下で弱体化した米韓関係を旧に復し、米国の韓国に対する信頼を取り戻して強固な米韓同盟により北朝鮮を牽制する以外に韓国が北朝鮮と付き合っ道はないと考え

夕刻)に、北朝鮮が同日午前十時三十分、黄海上で対艦短距離ミサイル数発を発射したというニュースが飛び込み、不吉な予感を抱かされている。

李政権 対北政策の成否

李氏は二月二十五日の大統領就任式において、韓国の北朝鮮政策は「理念の尺度」ではなく「実用の尺度」で解決すべきであり、北朝鮮が核を放棄し開放の道を選ぶのであれば南北協力は大きいにこれを推進する」という旨の政策を発表し

めに、核実験の敢行を許し開放を実現させることもできなかったという反省に立ち、理念外交ではなく「行動対行動」という相互主義をもって対北外交に臨むという李大統領の新方針の提示であった。北朝鮮がこれに不快感を抱いたとしても当然である。ひょっと

球)だったのかもしれない。実際、北朝鮮は昨年二月の六カ国協議で合意された、寧辺の核実験用黒鉛減速炉など三つの施設の稼働停止・封印

現ですませる一方、経済支援については「民族の均衡的発展と共同繁栄」というスローガンの下、開城工業団地の早期拡充、経済特区造成、白頭山観光振興と直行路開設、南北縦断鉄道(京義線)活用などへの協力を約束して盧前大統領は帰国した。一九七二年

核保有は飢餓によって揺らぐ北朝鮮の国内体制を維持するための手段であり、北朝鮮が国際社会で生き延びていくための唯一の手段である。さ

らに核兵器によって米国と在韓米軍を脅かし、米国の介入を排除して韓国との統一を「平和的」に実現するというのが金正日総書記の意図であろう。

李氏は二月二十五日の大統領就任式において、韓国の北朝鮮政策は「理念の尺度」ではなく「実用の尺度」で解決すべきであり、北朝鮮が核を放棄し開放の道を選ぶのであれば南北協力は大きいにこれを推進する」という旨の政策を発表し

めに、核実験の敢行を許し開放を実現させることもできなかったという反省に立ち、理念外交ではなく「行動対行動」という相互主義をもって対北外交に臨むという李大統領の新方針の提示であった。北朝鮮がこれに不快感を抱いたとしても当然である。ひょっと

球)だったのかもしれない。実際、北朝鮮は昨年二月の六カ国協議で合意された、寧辺の核実験用黒鉛減速炉など三つの施設の稼働停止・封印

現ですませる一方、経済支援については「民族の均衡的発展と共同繁栄」というスローガンの下、開城工業団地の早期拡充、経済特区造成、白頭山観光振興と直行路開設、南北縦断鉄道(京義線)活用などへの協力を約束して盧前大統領は帰国した。一九七二年

核保有は飢餓によって揺らぐ北朝鮮の国内体制を維持するための手段であり、北朝鮮が国際社会で生き延びていくための唯一の手段である。さ

らに核兵器によって米国と在韓米軍を脅かし、米国の介入を排除して韓国との統一を「平和的」に実現するというのが金正日総書記の意図であろう。

(拓殖大学学長)